

ドラッグインフォメーション

平成 30 年 4 月改訂

販売名	ジアスターゼ「ヨシダ」		製造販売	吉田製薬株式会社					
局方名	日局 ジアスターゼ								
洋名	Diastase		発売年月	昭和40年3月					
一般名	ジアスターゼ		薬価収載年月	昭和40年3月					
剤形	散剤		薬価	10g 28.20	保険適用				
規制区分	普通薬 日局		日本標準商品分類番号	872331					
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2331003X1264	YJコード	2331003X1264						
性状	本品は淡黄色～淡褐色の粉末である。吸湿性である。								
組成	1g 中、日局ジアスターゼ 1g を含む。								
効能・効果	主として炭水化物の消化異常症状の改善								
用法・用量	ジアスターゼとして、通常成人1回 0.3～0.5g を1日3回食後に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。								
配合変化	酸剤との配合は本品の破壊をもたらす。 本品は吸湿性が強いので配合による吸湿変化の原因になりやすい。								
薬理作用	麦芽ジアスターゼ中には α ・ β 両アミラーゼがあるが、 β -アミラーゼを主体とする。でんぷんに対しては両者が共同で作用すると考えられる。終局生成物は麦芽糖であるが、その他はグルコースやマルトトリオースなどの低級デキストリンである。普通分解は麦芽糖として75～80%までしか進まない。最適 pH は弱酸性(4.5～5.5)で比較的広い範囲を持つが、強酸や強アルカリ性では作用しないだけでなく破壊されてしまう。従って、ジアスターゼは、噴門付近で食塊が堆積し、徐々に胃酸で中和され始めた頃によく作用する。 一般にアミラーゼはパンクレアチン、パパイン、細菌プロテアーゼ等により消化されない。ただし、これは未変性、活性アミラーゼに限り、作用の過程で胃内 pH の低下とともに変性、不活性化したジアスターゼは以降タンパク質として消化される。								
使用上の注意	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者</p> </div> <p>副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">種類\頻度</td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹等</td> </tr> </table>					種類\頻度	頻度不明	過敏症	発疹等
種類\頻度	頻度不明								
過敏症	発疹等								
取扱上の注意	<p>貯法: 気密容器にいれ、30℃以下で保存すること。 吸湿しやすいので、乾燥したところに保存すること。</p> <p>使用期限: 3年間 使用期限(レツテルに記載)を過ぎたものは使用しないこと。</p>								
備考	包装単位: 500g								
文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10								